

和歌山病院での実習を終えて



井篁 智奈美

私は3月27日、28日の2日間、呼吸器内科のポリクリの一環として和歌山病院で実習をさせていただきました。

まずは結核について説明していただき、結核病棟を見学しました。結核病棟を訪れたのは初めてだったのですが、部屋を陰圧にし、空気を循環させていたり、扉を二重にするための前室が設置されていたりと、様々な工夫がみられました。結核は怖い病気だというイメージがなんとなくありましたが、今回きちんと病態について理解しなおし、気道からしか感染しないため、N95マスクをすることで感染を防げるということもわかりました。N95マスクのつけ方も教えていただきました。また患者さんができるだけ快適に過ごせるよう、明るく開放的な室内にシャワー室などが設置されていました。

また、呼吸不全についても学ぶことができました。実際に様々な人工呼吸器を見せていただきながら説明していただき、それぞれの人工呼吸器に特徴があり、使い分ける必要があるとわかりました。私はベンチュリーマスクをつけさせていただき、酸素が流入する感覚を体験しました。これまでの人工呼吸器の変遷についても教えていただきました。

南方先生からはレントゲンの読影について詳しく教えていただきました。南方先生は私たちに深く考えさせる質問を投げかけてくださり、今まで気が付かなかった疑問が次々とわいてきました。レントゲンの線がなぜ現れるのか、白く写るものと黒く写るものは具体的に何があるのかなど、原理から順番に考えていったので、教科書を読んでなんとなく暗記していたことを根本から理解できて、今後忘れない知識になったと思います。和歌山病院での実習を終えた後医大の呼吸器内科の実習に戻ると、患者さんのレントゲン写真を見て、その病態を考えることができるようになっており、とても嬉しく思いました。これからたくさんのお勉強をしていく中で、ただ暗記するのではなく、原理からしっかり考えて学んでいこうと思いました。

最後に、お忙しい中、今回の実習に関わってくださった先生方、スタッフの皆様に感謝いたします。これからも頑張っていきたいと思います。